

巻 頭 言

横浜市役所に障害福祉を所管する課ができたのは、1977年（昭和52年）のことです。この時に私も障害福祉課に配属になり、初代と2代目リハビリテーションセンター長となられる土屋、小川両先生や参与の佐々木先生をはじめ多くの方々から「障害」について学びました。

そこから出発して、リハビリテーションセンター、療育センター、障害者スポーツセンターの基本構想づくりを担当しました。今、30年を経てリハ事業団に身を置くのは里帰りのような感慨があります。

さて、リハ事業団に対して市民や利用者の方々が期待することの一つは、高い専門性に裏打ちされた治療・訓練・支援など上質のサービスを提供することではないかと思います。そのためには、不断に探求し知識や技能を高めることが大切で、研究紀要に収斂する活動は貴重なものであります。

他方、療育やリハビリテーションの目標が、よりよい社会参加や地域生活の実現でありその支援である以上、多様な地域密着の支援サービスが肝要であり、そのためにリハ事業団が何をできるのか問われているように思います。

これまでの仕事の枠や限界をどのように打ち破っていくのか、ひとり一人がこれまでの仕事をどこまではみ出すことができるのか、そしてはみ出し人間をどうやって育てるのか、私にはそんな非科学的な課題のように思われます。

共感と直感で仕事をしてきた30数年の経験からくる直感です。

横浜市リハビリテーション事業団

理事長 岸 本 孝 男